

週報

2007年 7月 15日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今日の聖書から》今日開かれる聖書“ガラテヤ書”はパウロの書いた手紙の中でも最も初期のものの一つです。パウロはダマスコ途上の改心の後、しばらくの後(おそらくその間に、神の救いに関して学びを進めていたのでしょうか)今度は誰よりも力強く、キリストを述べ伝える仕事の先頭に立つようになりました。パウロは三回の伝道旅行と、最後のローマへの道をたどる旅行を経験します(その後のことは聖書には記されていません。また歴史的にも、はっきりしていません)。ガラテヤは彼がキリストについて述べ伝え、初代の教会が幾つか建てあげられ、信徒の数も増えていった状態の中で書かれたものです。パウロの真実の伝道は、正しいものに出会った喜びを持って、生き生きとこの地方にも伝えられましたが、パウロ不在となってからの数年間の間に、彼とその仲間が伝えた福音は大きくゆがめられてしまったのを彼は知ります。“あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない(1:6)”とあるのがその内容です。“違った福音”というの、間違っただけのことです。“クリスチャンになるためには一度、ユダヤ人にならなければ正しとは言えない”というものでした。“こんなにも早く”という言葉も大切です。それは私たちも経験することだからです。教会にとって一番大切なことを、ただの習慣のように考えてしまったり、ただの、そして何の根拠もないただの習慣を、大切なことのように受け取ってしまっていることはないでしょうか。そのような習慣は、数年もあればできてしまうことがあるのです。パウロは教会生活の実践的原理を理想として説くだけでなく、現実に見聞きすること、行なうことについての、御霊による助け合いの大切さを示しているのです。“兄弟たちよ。あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい(5:13)”と言っているように、御霊の人は自由を持っています。この自由というのは、“キリストと共にある自由”のことです。毎日のことを考えてみましょう。悩みや喜びの原因が“神様の救いと関係のないところから来ている”ことは無いでしょうか。もし不和や不満があったら、“私の救いとどんな関係があるのか”を思い起こし、聖徒への呼びかけに応える生活を送りたいものです。“聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう(ユダ1:3)”と聖書はいうのです。